

欧米を中心に発生のみられる小児の原因不明の肝炎に関して

4月14日 Eurosurveillance 誌の報告：

グラスゴー市、スコットランド公衆衛生局 Kimberly Marsh 氏ら

要約：

2022年3月31日、スコットランド公衆衛生局は、原因不明の重症肝炎で3～5歳の小児5人が入院したとの警告を出した。レトロスペクティブな調査により、2022年1月1日以降に10歳以下の8人の患者が追加で確認された。このうち2組には疫学的なつながりがある。一般的なウイルス性肝炎の原因は除外された。5人の小児はアデノウイルス PCR 陽性であった。また、SARS-CoV-2を含む他のウイルスが分離されている。現在も調査が続けられており、新しい患者が報告されている。

本文より：

この報告では最初の5人の子どもの臨床および疫学データが検討されており、ほとんどの小児は、2,000IU/L超のトランスアミナーゼ上昇がみられ、1人が移植を受けたとされている。

症例定義は以下の通りである。

・確定症例：①2022年1月1日以降にASTまたはALTが500IU/Lを超える原因不明の急性肝障害を発症、②10歳以下あるいは確定／可能性症例との接触者

・疑い症例：①2022年1月1日以降に原因不明の黄疸を発症、②10歳以下あるいは確定／可能性症例との接触者

4/12時点でスコットランドでは13例が確定症例として報告された。年齢の中央値は3.9歳であった。

入院時の症状として、黄疸（9例中8例）、腹痛（9例中7例）、吐き気・倦怠感（9例中6例）などが報告されている。ほぼ全員が、入院前の数週間に、発熱はないが、下痢や嘔吐、だるさなどの消化器症状を訴えていた。

入院前1例に基礎疾患があったが他は健康であった。

検査成績では13例中5例にSARS-CoV-2への3か月以内の既往があった。ウイルス検査には通常の肝炎ウイルスに加え、エンテロウイルス、パレコウイルス、ヒトヘルペスウイルス6および7、水痘帯状疱疹、アデノウイルスの検査が含まれる。小児13人中5人がPCR法でアデノウイルス陽性であった（咽頭拭い液で2人、血液で2人、便で1人）

筆者らはこの時点では原因はわからないが手指衛生の重要性を強調している。

訳者コメント：

感染症の情報収集（サーベイランス）が世界で最も発達している国の一つである英国から

の報告である。Eurosurveillance 誌はその情報を速報として出す雑誌であり、日本では国立感染症研究所の感染症情報センターから出されている情報が相当する。本報告は小児に短時間で広がった急性肝障害の症例の第一報であり、サーベイランス結果および情報から症例定義を定めることが研究の出発点であることがよくわかる。

東京大学医科学研究所 先端医療研究センター  
感染症分野教授 四柳 宏 (本財団企画委員)